

放射性物質散布事案(核テロ)訓練に参加しました(2019/3/8)

テーマ：放射線災害、放射性物質散布事案、被ばく測定、核テロ
場所：大阪府茨木市

3月8日(金)、大阪府茨木市にて放射性物質散布事案(核テロ)訓練が行われ、当研究所災害医学研究部門災害放射線医学分野の千田浩一教授が訓練に参加しました。この種の訓練が国内で実施されることは珍しいのですが、本年6月に大阪でG20が開催される予定であることも踏まえて、科学警察研究所、大阪高速鉄道株式会社、茨木市消防本部、大阪府警察本部、茨木警察署による、各機関合同の放射性物質の検知訓練および避難誘導等の対処訓練が実施されました。

大阪モノレール宇野辺駅にて訓練実施されましたが、主な訓練シナリオ概略は次の通りです。

1. 事案発生(犯人役が模擬放射性物質を散布)、2. 駅員が事案認知し110番通報そして乗降客の避難誘導と入場規制、3. 警察官が現場に到着し犯人を確保、そして避難者を誘導、4. 消防部隊が到着し現地指揮本部および乾式除染所を設営、5. 避難者、駅員、警察官そして犯人の放射能汚染チェックと乾式除染開始、6. 警察NBC部隊到着、現地指揮本部を設営し消防部隊と情報共有、7. 警察NBC部隊が侵入開始し放射性物質(核種)を同定、8. 引き続き警察NBC部隊が放射性物質回収および除染除去作業を開始、9. 回収、除染除去作業後に各種サーベイメータ等にて放射線測定し安全確認、10. 安全確認完了後に規制解除判断 など。

今回の訓練では、仮想放射線システムを使用して行うことが可能であったため、より実際のリアリティーのある放射線測定訓練等を実施することができました。

はじめての合同訓練でしたが、各種作業等は比較的スムーズに行われ、手順確認やより実践的な対応力を身につけることができたと思われまます。

なおこの訓練の一部は科研費基盤研究A「市民・行政・専門家の連携による環境監視・減災支援基盤の構築と社会実装」(研究分担者：千田浩一)の支援により実施されました。



筆者及び模擬放射性物質と仮想放射線システム



駅構内に設営された簡易的な乾式除染所



警察NBC部隊が到着



核種同定、回収、除染除去作業